

令和6年度 第2回 府市トップミーティング

日時：令和6年7月23日（火）14:00～14:40

場所：京都市役所 正庁の間

○松井市長

皆さんこんにちは。暑い中、京都市役所においでいただきまして、西脇知事ありがとうございます。それでは、第2回の府市トップミーティングをこれから開催させていただきたいと思います。今日は輪番で、前は府の方に伺いましたので、今日は西脇知事に暑い中で、京都市役所までお運びくださいまして、ありがとうございます。そして皆さんも暑い中、ありがとうございます。お疲れ様でございます。

前回は4月11日で、約3か月あまり経ちました。前回、府の公館で第1回のミーティングを開催いたしまして、新しい府市懇談会の進め方を確認し、年に数回程度、機動的に実施するという合意をさせていただきました。その際に、複数の政策分野、観光、文化、産業、教育をテーマにフリートークを実施して、市立高校・府立高校の連携、あるいは府市連携による周遊観光の推進について、合意をさせていただきました。

ちょうど3か月経ちまして、西脇知事と合意させていただいたことについて事務的にも、これトップミーティングと言ってますけれど、知事と私がミーティングをして、大枠を決めて、2人で全部仕切るということではなくて、今日も同席いただいています府庁の副知事様を始めとして幹部の皆さん、あるいは市役所の副市長以下職員で色々議論をさせていただいて、ある程度その成果が出てきているということで第2回目、さらにそれに加えて、今日は色んな議論をさせていただきたいと思います。まずはこの2回目の開催にあたって、知事の方から一言お願いできますでしょうか。

○西脇知事

まず本日、この正庁の間、素晴らしい会場をまた設えを準備していただきましたことに市長を始め京都市の職員の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。今、市長から一部お話がありましたけれど、例年、これまでであれば8月とか場合によっては秋になったり、年1回開催していたところを、数回、機動的に開催しようということで、すでに今回で2回目ということになりました。前回の打合せのときに、そのトップ同士が議論をして、一定の方向性を確認し合って、それを事務方の方で具体化をしていって成果を出す。しかもその成果をできる限り府民・市民の皆様にお届けする。そういうサイクルを作っていこうということにいたしまして、そういう意味では、それほど時間を置かずに、こうして第2回目を開催できたということで、府市協調の取組の新しいサイクルというのがいよいよできつつあるなということを実感しております。そういう意味では、この会場の設えと併せまして、それぞれの所の職員の皆様にと事務的に議論して詰めていただいたことについても、心から感謝申し上げたいと思います。今日は、一つよろしくお願いたします。

○松井市長

今日の流れとしては、メディアの皆さんにも配布させていただいた1枚紙の配布資料が

あると思います。前回のトップミーティングで合意した事項について、事務方、今知事の方からお話がありました府庁、市役所、それぞれの事務方で議論をいただきまして、具体的な内容のある程度合意を得ました。それを説明させていただいて、そのあと前回同様、フリートークを行っていきたいと思います。それでは前回の合意事項である「周遊観光」につきまして、西脇知事から具体的な取組内容の御説明をお願いできますでしょうか。

○西脇知事

それでは私の方から観光関連の説明をさせていただきます。資料の1枚紙を御覧ください。第1回のトップミーティングでは府市連携して、周遊をコンセプトとした観光を推進することと、共通のキャッチコピーを準備して効果的な発信方法を検討しようということで合意しております。

今日に至るまでに、その合意に基づきまして、第1弾ということで府市の周遊観光ツアーの造成を実施するためということで、それぞれ京都府、京都市とも、補正予算で1,000万円の補正予算の御議決をいただきました。それを活用する形で、今月の5日から、山科・醍醐と宇治、それから京北と美山、それから西京と竹の里・乙訓、そういうものを例示で出しながら、周遊観光ツアーの募集を行っておりまして、これ7月19日までですけれども、9事業者から39のツアーが出てまいりました。これを今審査、検討中でございます。本格的な観光シーズンが始まる前の9月には、ツアーの販売を開始したいと思っております。配っている資料に事業者への支援内容も出させていただいておりますし、ファミトリップも行いたいというふうに思っております。

それからキャッチコピーにつきましては、「まるっと京都」ということで、決めさせていただきました。意味が3つありまして、京都はええよ、すばらしいというマル。それから周遊するというところで、ぐるぐる回るという意味でのマル。それから京都全体を丸ごと見てほしいという意味でのマルというような意味を込めて「まるっと京都」ということをキャッチコピーにしたいと思っております。これから先ほど言いました、周遊観光のツアーも当然プロモーションしていかなければいけないので、そういうところでは、このキャッチコピーも活用したいと思っております。一部キャッチコピーを使って、ロゴなんかも必要なんじゃないかということも指摘されていますので、ロゴの作成につきましても、検討していきたいと思っております。

それからこの中身ではないのですけれども、これは場所の分散化なのですけれども、時間の分散化というのも一つありまして、ナイトタイムエコノミー、特にその取組が弱い。これは京都だけじゃなくて、ずっと言われていることなのですけれども、そんなことにつきましても、これからは場所の分散プラス時間の分散なんかも検討できたらいいなというふうに私自身も思っております。私の方からの説明は以上です。よろしく申し上げます。

○松井市長

はい。ありがとうございました。ナイトタイムエコノミーは共通の課題です。またよろしく申し上げます。

それでは私の方から、同じく配布資料の「高校連携」について御説明したいと思います。配布資料の高校連携のページをメディアの皆さん見ていただければありがたいです。

前回の4月のトップミーティングで、市立高校と府立高校で行うジョイント事業「京の高校生探究パートナーシップ」を導入するという合意させていただきました。

その連携の最初の取組、言ってみればキックオフ、あるいはもうちょっと言うとキックオフを目指して、府立高校の先生方、生徒さん、市立高校の先生方、生徒さん、探究型の学びをここに向けて始めていただきたいという思いを込めまして、キックオフイベントを記載させていただいております。この年末12月21日に、国立京都国際会館で「京の高校生探究パートナーシップ」というキックオフイベントを予定しております。創造性をなるべくかき立てたいということで、大変御多忙な方なのですが、AI研究の第一人者である東京大学の松尾豊教授に講演をしていただいて、ただその講演だけを聞いて終わりではなくて、各学校で実施を計画している探究学習との連携を図りながら、学びを深めていく1つの機会をここに向けて提供していきたい。あるいはここからさらにその探究型の学びを発展させていきたいということで、府立・市立高校の生徒による成果発表を、そのページにも記載させていただきましたが、ある程度の人数もおいでいただいて、そしてブースもそこに書いてあるように100か所くらい設けて、できるだけ研究発表をしてもらおう。あるいは対談、パネルディスカッションみたいなものも可能なら企画していきたい。発表生徒、見学生徒合わせて800人程度の学生、あるいは関係者に、そこに集まっていただいて、これが1つの大きなきっかけになって、府市連携、高大連携、高校生の学びの場の充実に取り組んでいきたいというふうに考えております。それが今の配布資料についての府市の高校連携についての私からの説明でございます。

合意事項の説明は、今の知事のお話と私の方ぐらいにして、より高いレベルでの府市協調に向けて色んな政策分野で西脇知事と意見交換していきたいと思っております。フリートークの方に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

○西脇知事

よろしく申し上げます。

○松井市長

最初は、子育てについてお話をさせていただければと思っております。

早いもので、私の選挙戦は2月4日でしたからもう相当な期間、市長就任後も5か月というところなのですが、選挙戦で、府市協調で子育て・教育環境日本一の実現を西脇知事と連携して行いたいということ、私も選挙公約に掲げさせていただきました。

今日はまず住まいについて申し上げれば、京都市も、京都府もそれぞれの公営住宅を活用した若者・子育て世代向けの住居の提供に取り組んでおります。これ私どもは昨年度から始めておりますし、府も知事から御紹介いただいたらいいと思うのですが、そういう公営住宅を活用するという取組を行っております。

それから、保育に関して言うと、これ私どもとしては今年7月から京都市内の13施設で、「こども誰でも通園制度」の試行実施を行っております。就労の有無を問わず保育施設において保育士による育児支援を利用できるようにさせていただきました。ここらへんについても、京都府の取組についてまたお話をいただいたらいいんじゃないかなと思っておりますが、そこはもう府市協調で同時で実施しているプログラムかなと思っております。これまでも

府市連携の取組を進めてきましたけれど、やはり我々は住まいという意味では、「京都安心すまい応援金」の制度もこれからであります、募集開始ということになります。

住まい、あるいは保育という面で1歩前に進んでと思うのですが、これについて、西脇知事のお考えをお聞かせいただけたらありがたいと思います。

○西脇知事

私も就任以来、子育て環境日本一の実現ということを府政の最重要課題に位置付けております。そういう意味では府の人口の約6割を占める京都市の取組が不可欠で、合計特殊出生率も京都市は低く、それによって全体の平均が決まってくるころもあります。ぜひともここは連携をしたいということで、先日も市長にも参加いただきまして子育て環境日本一推進会議を開催して、これは色んな団体、オール京都で取り組むためにということで、テーマを決めて、共同プロジェクトを設定するという、今回は「子育てが楽しい風土づくりを京都中にどう広げるか」をテーマとして設定して、共同プロジェクトとしては、「子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト」ということを設定させていただきました。具体的行動はあの時に紹介したのですけれども、ミュンヘンでやっておられる子どもによるまちづくりということで、この「ミニ・ミュンヘン」をとりあえず今年度はモデル的ということで、府下では2か所ぐらいでやろうと思うのです。これちょっとその成果を見てみないといけないのですけれども、場合によってはいずれ、もしある程度、効果があつて定着するというのであれば、ぜひともまた京都市内でもやった方がいいんじゃないかと、その時の御協力をお願いしたいと思っております。

それから住まいについて公営住宅の活用については、当然、足並みを揃えてやっていきたいと思っております。

「こども誰でも通園制度」の方は、実は私どもの方の子育て環境日本一推進戦略に「親子誰でも通園制度」という、親も色々学びを、親の孤立孤独を防ぐということで、これは国の方の「こども誰でも通園制度」のモデル実施のところに付加する形で、その軒先を借りてやってまして、京都市と宇治市でやらせていただくということで、これも考えによっては府市連携の典型のようなものです。これは最終的に国の方に、そういう親子というような制度を制度化するようと言うための効果測定とか、課題整理のために出したということもあるので、そこの点については一緒にやっていきたいと思っております。

いずれにしても住まいの問題は、実は大きなまちづくりの中での一環ということで、やっぱり我々も若い人が京都で働きたい、京都で子育てしたいというように思えるような京都づくりということについては、当然住まいも重要ですけども住まいを含めた総合的なまちづくりが必要なんじゃないかなと、今日はテーマが大き過ぎてですね、なかなか深掘りできないんですけども、今後の大きな問題意識としては提案をしていきたいというふうに思っています。

○松井市長

はい、ありがとうございます。私の大学の教員時代に、知事がおっしゃった「泣いてもかましまへん」というあのキャッチフレーズがすごい素敵だと思ってまして、ちょうどこの週末に、西京区役所の近くの西文化会館で京都市交響楽団が「0歳からのコンサート」と

いうのをやっています、沖澤のどかさんという京都の宝のような、我々の京都市交響楽団の常任指揮者ですが、その沖澤さんが京響で振ってですね、会田莉凡さんという京響が誇るゲストコンマスがちゃんと乗ってくれて、ウエスティはそんなに大きなホールじゃないですよ。七、八百人ぐらい入るホールで。0歳児ですから泣くんです。「泣いてもかましまへん」って言って、今、知事がおっしゃった、まさにそうでね。子どもたちも喜んでるんですけど、親御さんが、言葉古いですけれど、乳飲み子を抱えてなかなかこんなコンサートできないのに、来ていただいて、それで一緒に聞けると。どうぞ途中でも出入りしてくださいって言って、泣きやまへん子どもは出て、あやしてまた戻って来るとかいうことも含めて、楽しんでいただいて。それはすごい大人にとっても若い御夫婦、お父さんお母さんにとっても、子どもが居てなかなかコンサートに行けないっていう時に、約1時間のプログラムで、非常に楽しんでいただいた。その日は西文化会館でしたけれど、前日は呉竹文化センター、伏見の方でやりました。それこそ北山の京都コンサートホールであれば、植物園でちょっと楽しんで、音楽の気風みたいなこともできるなどと思って、これ西脇知事がずっと言ってはったことやなど。自分たちの市の事業でしたけれども、そういう意味では親にとっても、子育てじゃなくて親育ちって言いますね最近。それにとっても非常にいいと思うので、これもまた将来的には、コンサートホールエリアをどういうふう楽しんでもらえるかということも含めて、またお知恵をお貸しいただけたらありがたいと思います。

○西脇知事

長くなるとダメなんですけれども、1点だけ、確かにコンサートすばらしいですね。というのはうちの方もハンナリーズとかサングの試合で一部そういう小さなお子様もおられる方を招待してる。それはどちらかという、託児、子ども預かり所を設けて、親御さんに観戦してもらおうということをやったんですけれども、場合によってはそのエリア全体、そのホール全体で泣いてもいいということであれば、もっと気楽に楽しめるということもある。まさに「泣いてもかましまへん」の提唱者がお話されたことがそれで。とにかく一度でも喫茶店とか、地下鉄でうるさいと怒鳴られたら、もう親御さんたちは二度と外出したくなくなる。それを何とかしたいっていう思いだったので、別に泣いていることを認めるというよりも、それによるバリアっていうんですかね、外出のバリアを除くためのキャッチフレーズだということだったので、今の話はまた次の私らの色々な連携のタマにもなるので、ぜひまた一緒になってやっていきたいと思います。

○松井市長

ありがとうございます。今小さいお子さんの話をしたのですが、子育てとか教育ということになりますと、今、知事からバリアを取り除いてという、私もまた同じことを考えていて、できるだけ継ぎ目のない教育・子育て環境を良くしていくという意味では、先ほど前回の合意事項を踏まえたイベントとして、高校生の連携をお話しましたが、さらに進めると高大連携と言いますか、大学政策についてですね、知事のお考えがございましたら、お伺いしたいと思います。

○西脇知事

これも松井市長がよくおっしゃっていた京都は大学のまちだということで、人口に占める大学数も、それから大学生の割合も、日本で一番高い。47都道府県で一番高いということで明らかです。この大学の存在が、これまでの京都の活性化とか発展に大きく寄与していただいたことは間違いないと思うのです。ただ、大学卒業者の府内定着率が17%台とか18%台で、これをどれぐらいにすればいいのかって、何回も突きつけられている課題でそこはまだ答えは出ていないのですが、それにしてももう少し定着してもらったらいということなんです。

最近の話では、最初の新卒の時にはいなくても、転勤で帰ってきたりとか、起業する時には京都でしたりとか。また、最近雇用が非常に流動的なので、再就職する時には京都とか、色んなパターンで京都に戻って来てもらいたい。要するに、大学の存在をもっと京都の発展に活かそうということで、今は企業のことを言いましたけれど、市長がおっしゃったように高校とか、中学生とか、下に向かっての連携ということですね。その中で特に雇用、京都府内の中小企業にとってみて、大学がたくさんあるんだけど、個別にはなかなかアプローチしにくい。ジョブパークとかあの辺りで色んなイベントをして、企業も集めて、できる限り大学も集めて、1社で1大学というのが一番大変なので、まとめようとしてるのですが、例えば、大学コンソーシアムとかもありますし、もう少し京都府内企業が効率的にと言うか、もうちょっと幅広く京都府内の大学にアプローチできるようなこととか、色々大学の学生を束ねてもらう機能を高めてもらうと、もう少し色んなことができるんじゃないかなという思いもあります。その辺りについては、一緒にまた検討していきたいなというふうに思っています。

○松井市長

はい、ありがとうございます。私もジョブパークでいくつかの府の主催される事業に同席させていただいて、やっぱりあれいいなと思います。私大学の教員時代の経験も含めて言うと、私が所属していたキャンパスはできるだけ地域社会に関わるということを重視したキャンパスだったのですけれど、それでもやっぱり大学とバイト先と自分の住まい、それが単身のマンションに住んでる子も最近多い。御自宅から通っている子もいますが、その三角形の往復だけでは、その活動と就活は全く別の活動になっちゃって、就活する時はエントリーシートを山ほど出して、いわゆる有名な企業から反応が来たらそこに行くっていう感じで、大学生活とあんまり関係ないですよ。あるいはどこで学んでるかっていうのと。この間私も市民対話というのをずっとやらせていただいているのですが、結構中小企業団体の方々がそこに入ってこられたりして、あるいはNPOの方々が入ってこられて、その地域の社会問題に関わると、明らかにその学生の定着率が高くなるっていうのが彼らの実感ですね。関わった子は結構自分たちの会社とかも、面接に来てくれる。だからやっぱりそういう地域と関わるっていう活動をどれだけやっていくか。これは、各大学の取組も必要ですし、同時に今、知事がおっしゃったように、京都は大学コンソーシアムが非常に全国の先鞭をつけたまちなので、これは実は大学のことですから、我々あまり口出さないですけど、よく考えてみたら、大家は京都市なんですよ。キャンパスプラザの。今日の他の話にも関わってくるかもしれないませんが、京都駅前でも色んな活動が新たな活動が生ま

れてるので、そういうところをもう1回再評価して、連携を強化して、大学間横断で、京都市内だけでも36の大学がありますし、府内で言うと40数大学あるわけですから、この大学のまちがもっと実体経済に関わるというこの接点を増やしていくのは、府も熱心になさってますし、市もこれから頑張っていきたいと思っております。知事いかがですか。

○西脇知事

その中で言えば、例えば福知山の新町商店街では福知山公立大学の学生たちが、定期的にやっている商店街の日曜日のお祭りに、空き店舗で出店したりとか。そうすると卒業生もこの日に行けば必ず後輩に会えるとなっている。そこが就職まではまだ結びついてないのですけれども、地域と関わっている。商店街は少しずつ例ができていますけれど、もっといわゆる京都府内の企業と学生時代に関わるというようなことが工夫ができるのかなど。今、早いこと就活も始まるじゃないですか。文化活動だとお祭りのアルバイトは、完全に学生が支えているというのもあるし、あるいはサークルで連綿となってるところもある。だから、そういう意味ではもう少し企業とか産業とかとの関わりを大学時代に地域企業と一緒に持ってもらうというのは市長がおっしゃるように、定着に必ず繋がるんじゃないかなど。それを誰かが仲を取り持つというか、個別に企業と大学同士やってもなかなかうまくいかないの、そこは我々が手助けできるところかなと思っています。これの課題はたくさんあるのですけれど、ぜひチャレンジしたいなと思います。

○松井市長

ありがとうございます。ぜひ大学コンソーシアムも1つの窓口ですし、今、知事おっしゃったように、そこを核にしながら、色んなところとの繋がりが、商店街と繋がったり、色んな業界団体と繋がったり、伝統産業で後継者不足のところ、何か取組をうまくコンソーシアムと繋いでいくとか。そういうことをやっていくと、個別の大学でそれぞれのネットワークを持ってるところもありますけれど、自前のネットワークが弱いという大学も含めて、これはぜひ京都のまちとして前に進めていきたいと思っています。

話題が変わりますけれど、知事は関西広域連合の副連合長をなさっていて、私もできるだけお邪魔するように。それでも出席率はまだまだなのですが、伺って、関経連の皆さん方との意見交換会がございました。万博について、色んな話その場でも出ましたけれど、知事の方から、この万博関連で思いがおりだと思うので、お願いします。

○西脇知事

万博の会議で申し上げていますが、1970年の万博は、万博会場に行って、国際的な感覚に触れるとか、色んな新しい技術に触れるとかってことだったのですが、今回の万博はもちろん会場にはもちろん行っていただきたいと思っておりますし、そこに関西パビリオンの中の京都ブースもあるので。その期間中、京都府域で様々な取組をすることによって、できる限り多くの方に京都にお越しいただく。それだけじゃなくて、その京都で様々な交流が生まれるということを期待したい。

大阪・関西万博きょうと推進委員会で、市長にも、4月も御参加いただきましたけれども、色んなプロジェクトを計画しています。その中にフラッグシップアクションというのが11あって、これは広域で対応するとか、できる限り多くの主体が関わるというものにつ

いて挙げてまして、1つだけ例示すると、先ほど京都駅の話がありましたけれども、京都駅エリアまるごとゲートウェイ構想っていうのは、京都市立芸大があって、高瀬川の改修と周辺の開発、東に行けば鴨川で、西に行けば梅小路公園があって、水族館、鉄道博物館があって、市場の改修があって、KRPに繋がるスタートアップ拠点とか、南の方では東九条とか。要するに駅周辺で結構色んなプロジェクト、これ京都市のプロジェクトがほとんどなのですけれども、それを万博の時に一定のこのエリアで、京都で色んな人を迎えるためのゲートウェイにする。文化芸術とか食とか色んな取組が行われるようなことを計画しています。ただそんなに税金を投入してどうのこうのっていうことではなくて、色んな方の協力を得てやっていこうということで、これは特に1つの象徴的なアクションなので、京都市と我々は当然なのですが、それだけじゃなくて、オール京都で、企業も含めて、ぜひ実現したいなと思いますので、よろしくお願いします。

○松井市長

はい、ありがとうございます。今おっしゃったこの京都駅まるごとゲートウェイは、本当に私たちも期待しているところで。私いつも言うのですけれども、ある種、色んな地域の課題があったところが、今大きな課題を可能性に変えて発展しようとしている、大きな可能性があります。元々知事は、下京は地元でいらっしゃるし、知事が一番お詳しいわけですが、駅の北側も東側も西側も、あるいは南側も、それぞれの地域が少しずつ個性が違う。しかし、同じように言えるのは、それぞれが今、新しいまちづくりが始まっている。しかし、それは歴史を忘れていない。そんな状況だと思っております。今おっしゃったように、例えば崇仁、芸大も行きました。それからおそらくこれから京創HUBが出てくる。それからその南側の東九条は、E9っていう小さい小劇場ですけれど、素晴らしいものができて、多様な京都の文化の多文化共生のまちができます。おそらくおっしゃった市場のエリアは移転も含めて、食の京都の中心地、それからKRPもありますし、産業集積、産技研もありますし、そういう意味では色んな多様な要素が、京都駅周辺にあるので、それをこの万博を契機にしっかりと発展させていきたいというふうに、私も思っております。これはまさにオール京都でやらなきゃいけないと思っております。

○西脇知事

よろしくお願いします。

○松井市長

今、私の方で文化の話をさせていただきましたけれども、最近文化で特に注目を集めているメディア・アートについて、お話をしたいと思います。この6月、先月ですが、岸田総理を本部長にする知的財産戦略本部で、「新たなクールジャパン戦略」が策定されて、そして、「骨太方針2024」にも、メディア芸術ナショナルセンター（仮称）の機能を有する拠点整備の推進というのが掲載されて、メディア・アートについての国の動きも出てきています。

これは私が以前、参議院議員だった時に多少関わらせていただいたのですが、京都市が京都精華大学と一緒にやってる京都国際マンガミュージアムが非常に順調に発展しています。京都府、知事にも御相談して、さらに発展できないかと思っている「京まふ」、これも定着をしております。

そういう意味では、私としてはこのメディア芸術ナショナルセンター（仮称）について、国家予算要望で知事も取り上げていただいて、ありがたいと思ってるのですが、我々としては、その一部機能を例えば京都国際マンガミュージアムも担っていくというようなことを含めて、ぜひ国と京都府と京都市が連携した活動にできればなと思っています。このメディア・アートの関連について、知事からございますでしょうか。

○西脇知事

メディア芸術ナショナルセンター（仮称）については、政府要望でも出して、国の方がどういう形でそれを実現するのか分からないのですが、都倉文化庁長官も非常にこの点については、熱心でお考えもあるようです。本体がこっちに来るかどうかわからない、例えば、一部機能なのかどうかも含めてですけど、やっぱり京都は映画の発祥の地であって、ゲーム、アニメ、まさにメディアですね、メディア文化の非常に発達してる所なので、それをぜひとも実現したいなと思っています。もう1つは、「KYOTO CMEX」という大きな器なんですけれども、府市が入り、しかも民間も入ってるような大きな枠組みがありますのでこれを活用して、メディア・アートをもう少し京都がそのメッカになるような取組というのを府市協調でできれば。太秦メディアパーク構想は、うちの方の産業リーディングゾーンに入れてまして、これはどちらかというと太秦を中心にしたような新たな展開をとということで新たなコンテンツ産業の集積をということですが、それも含めてぜひ府市協調でこのメディア・アートについても、取組をさせていただきたいなと思っています。

○松井市長

はい、ありがとうございます。京まふもこれからさらに京都府の御協力もいただいて、来年度以降ですね。今年は9月ですから。それを順調に発展させて、さらに来年度以降発展させていきたいと思えます。また、太秦という意味では、我々も京都国際映画祭が1つの節目を迎えて。京都府はヒストリカ映画祭、玄人筋の評判が高いですね。私も映画関係の友人が多いのですが、非常に高い評価をされています。我々もその映画への関わり方についてもまた協力させていただきたいと思えます。

もう時間も大分迫ってきましたので、最後のテーマになるかもしれませんが、産業について、これ前回は話が出ましたが、今日は特に半導体関連で、知事の方から御説明いただけますでしょうか。

○西脇知事

とりあえず私から口火だけということで。これ前回は少し話題になったのですが、前回は半導体の関連企業とか大学における素材開発だと、京都には半導体についてのベースがあるので、デザインセンターの誘致とか、関連企業の集積を図って、若者にとって魅力的な産業創造の取組が必要だというような話をしました。半導体産業はあらゆる産業の土台なので、しかも京都の強みは必ず活かせると思っております。例えばクラスター化による拠点開発ということで、素材の研究から最先端研究で設計、実用まで一貫した半導体関連産業の集積というものを図っていく必要があるんじゃないかと。ここは松井市長の得意の分野ということで。

○松井市長

ありがとうございます。京都は、私は半導体について特別な地位があると思います。これは、パワー半導体の分野で京都は、研究知の集積がアカデミアにもそれから産業界にもあります。それから、世界シェアを有する装置メーカーの立地であるとか、あるいは特に今おっしゃったデザインセンターっていう話になってくると、海外の色んな研究者における、この京都のネームバリュー、ブランド力っていうのがあるので、非常に強みがあると思います。ぜひ府市協調で、市内外の企業、スタートアップ、大学、あるいは色んな支援機関との連携、ネットワーク構築、エコシステムの構築。様々あって、材料とかプロセスとか、半導体と言った時に、いわゆるマイクロプロセッサとか、メモリとかそういうものの製造もいいのですけれど、その周辺の日本のオンリーワンの技術をどう集積させていくか、あるいはデザインの分野、これも日本を代表するような設計関係の会社が京都にも拠点を構えていただいています。さらにそれを深掘りしていけないかなという意味で、特に今、知事がおっしゃったデザインセンターの京都への集積っていうのはすごく大事な事かなと思っております。やっぱり府市連携で半導体に取り組む姿勢というのを積極的に我々としても発信していきたいと思っております。

○西脇知事

その半導体の設計とかになると、やっぱり相当な技術の方がいますけれど、皆さん京都に来られるという。私も色んなところで人材誘致をやっていましたけれど、人材誘致って結構総合力が必要なところもあって、もちろん報酬とか、そういう会社の処遇も必要なのですが、やっぱり生活環境も含めたところを整えるということも非常に重要だというふうに思っています。その辺りは京都市のまちづくりとの連携も必要なかなと思っています。

あと2つだけ言いますと、1つは、京都市、もちろんそういうデザインセンターも含めて集積ということを考えるのですが、南の方まで目を向けてもらうと、けいはんなのエリアの中にも一部そういう関連の所もある。立地の余地もあるかもしれないので、エリアを広げていただいて、全体として、そういう半導体の集積を図る。これクラスターに当然なるのですけれども、そういうこともぜひ構想したいなと思っています。

もう1つは、半導体を私も色々と勉強すると、元々素材研究に特化している大学のところから、それから半導体も色んな関連装置とかありますし、それから我々役所も、あと国のもちろん支援とか、その辺の産官学の取組を連携していくためには、それを全体をこう結びつけるようなシンクタンク的な機能が必要なかなと。ただし、シンクタンク機能は別に半導体だけで必要なわけじゃないのですが、特に半導体は裾野が広くて、関連産業も多いので、そういう産官学を結びつけるようなシンクタンク機能もぜひ必要なんじゃないかなと思っておりまして、その辺りも少しちょっと検討してみたいなと思っております。

○松井市長

はい。そういう意味では、今おっしゃって、私2つ感じました。1つは、私のよく存じ上げて民間企業の方からも伺ったことがあるのですが、半導体の設計技術者、高度な設計技術者、海外からのグローバル人材、グローバルエンジニアを誘致していかなきゃいけない。そういう意味で京都というのはすごく魅力がある。ただ、そういうグローバルな人た

ちは東京というよりも、むしろ京都の方が同じ給料なら京都で設計したいというような人もいます。ただそれぞれの企業も、京都の居住環境なんか分からないから、そういうところでもっと情報提供とか、色んな環境整備ができればという話があったので、そのグローバル人材、これ半導体に関わらないのですが、グローバル人材をもっと京都で働いてもらうための支援みたいなことを、何ができるのかということを考えていきたいと思っているのが1つ。

それから2つ目、今おっしゃった通りで、京都市域とか、京都府の他の市域、あるいは町村含めて、そういう垣根なく、色んな裾野の広い産業ですから、それをどういうふうに誘致し発展していくのか、させていくのか。シンクタンク機能が重要だという知事の御趣旨は非常によく分かります。これは具体的に今後、よくその構想の中身を伺いながら、我々としてもぜひ、その機能を高めていくっていうのは全く賛成ですので、取り組んでいきたいと思います。その辺も含めてもしあれば、お願いします。

○西脇知事

そうですね。この半導体、最後になりましたけれども、松井市長の御提案には全面的に賛成ですので、ここで確認だけをさせていただきますと、最後に言ってもらいましたけれども、京都市から例えば関西文化学術研究都市までを含むある程度の広いエリアで半導体の元々の素材研究、それから半導体デザイン、生産、そしてそれを使うEVとかロボットとか、そういうところへの実装までを一貫して取り組んでいくような構想、そういう大きな構想を府市で連携して打ち出して進めていく。それが逆に言えば国内外に、京都におけるその半導体のパワーというかですね、ポテンシャルを示すことになるんじゃないかなということで、それを連携して推進することが1つ。

それから各論になりますけれど、エンジニアとかを含むグローバルで、しかもクリエイティブな人材を京都に呼び込むための環境整備というのを、これはどういうことができるかを含めて府市で協調して検討をするということで、とりあえず次のステップに進むように、事務局も含めて、具体化ができればというふうに思います。

○松井市長

はい、ありがとうございました。大体予定したフリートークの時間がほぼ終わりに差しかかりつつあります。フリートークはこれぐらいにさせていただきたいと思います。

最後に知事からまとめていただいた半導体について、さらに今日の議論を踏まえて、府と市の事務方で具体的な検討を進めていただきたいと思います。また、その他にも冒頭の話から言うと、子育て、それから大学、万博、あるいはメディア・アート、多様な分野について、今日、知事とお話させていただきましたので、この各テーマについても、さらに今日配布させていただいた具体的なああいいう政策の1つの出口に向けて、府と市のそれぞれの事務方で議論を、検討を深めていただきたいと思います。そこら辺の検討がまたある程度進んでまいりましたら、ぜひまた同じような形で、トップミーティングを開催して、さらにまた次の課題へということで、回を追うごとに具体的な何か成果を前向きに出していく中で、色んなさらに長期かかるような問題もあろうと思いますが、そこをまた追々、議論を進めていきたいと思います。

やはりトップミーティングの大切なことは、前向きにできることから協力を深めていく中で、さらにその中で色んな困難な問題もあるでしょうけれど、そこも含めて、府市が垣根をできるだけ低くして議論させていただくような形でできればと思います。もし何か最後あれば。

○西脇知事

その通りだと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○松井市長

ありがとうございます。大体予定の時間になりましたので、このあたりで本日のトップミーティングを終了させていただきたいと思います。西脇知事ありがとうございました。そして、府のあるいは市の関係者の皆さん、ありがとうございました。